

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272301029		
法人名	社会福祉法人桐栄会		
事業所名	グループホームいこい		
所在地 (電話番号)	〒038-1204 青森県南津軽郡藤崎町水木浅田95番地 (電話) 0172-69-5007		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 9月 11日	評価確定日	平成 20年 10月 31日

【情報提供票より】(平成20年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 2月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	5,100 ~ 冬期10,200 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときわ会病院、八巻内科循環器科小児科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの窓からは岩木山や田んぼ、りんご畑が一目に見渡せるので、利用者は馴染みの風景を目の前にしながら季節の移り変わりを感じて暮らす事ができる。母体施設によるバックアップ体制が充実しているほか、ホームには看護師や栄養士の有資格者を揃えているので安心して過ごす事が出来る。災害時の支援体制や職員研修なども充実している。管理者・職員は、利用者が地域の中で、地域の一員として充実した日々を過ごせるようにと地域交流にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、理念の見直し、地域貢献、虐待防止マニュアル作りなどの改善項目に取り組み、サービスの質の引き上げを行なっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解し、職員一人ひとりが自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2ヵ月毎に開催され、評価への取組み状況、入所判定会議の結果、事故報告のみならずヒヤリハット事例に至るまで詳細に報告され、活発な意見交換がされている。また、そこでの意見や寄せられた地域の情報などを職員会議で前向きに検討して、サービスの引き上げに活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	玄関へ投書箱を設置したり、家族への面会時の声かけやお茶出しをしながら日頃の利用者の様子を伝えるなどして意見を出しやすい雰囲気づくりをして、積極的に意見の引出しを行なっている。また、出された意見は真摯に受け止め日々のケアに直ちに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近所の人たちと挨拶をする、近くの公共施設の催し物に出かける、地域行事へ参加するなどして地域との交流を図っている。また、地元採用の職員、ホームの新聞や法人の広報誌を活用するなどしてホームに対する理解の促進や認知症ケアの普及を図っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合っ、現在の理念に地域密着型のサービスを盛り込んだ新たな理念を付け加えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が新たな理念を共有し、積極的に地域行事に参加するなど、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に近所の人たちと挨拶をする、近くの公共施設で開催する催し物に出かける、地域行事へ参加するなどして地域との交流を図っている。また、地元採用の職員、ホームの新聞や法人の広報誌を活用するなどして、ホームに対する理解の促進や認知症ケアの普及を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果や職員一人ひとりが評価に取り組んだ結果を持ち寄って、理念の見直し、地域貢献、虐待防止マニュアル作りなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヵ月毎に開催され、評価への取り組み状況、入所判定会議の結果、事故報告のみならずヒヤリハット事例に至るまで詳細に報告し、意見交換している。また、そこでの意見や寄せられた地域の情報などを職員会議で前向きに検討して、サービスの引き上げに活かしている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、運営会議以外にも、意識的に町の担当者まで出向いて困難事例や利用者の支援などについて話し合うなどし、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加しているが、職員全員が理解するに至っていない。	○	予定している復命研修などを通じて制度に対する理解を深め、必要時に全職員が対応できる体制を作ることに期待したい。
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の皮膚や体のチェックなど虐待マニュアルに基づいた実践的な取り組みを通じて、虐待が見逃されることがないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書を基に利用者と家族に十分な説明を行うとともに、疑問や質問に丁寧に対応するなどして理解と納得を図っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に報告しているほか、健康状態等に変化があったり、ヒヤリハット事例が発生した場合などは、その都度に報告している。また、3ヵ月毎にホーム新聞を発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動状況等を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関へ投書箱を設置したり、家族への面会時の声かけやお茶出しをしながら日頃の利用者の様子を伝えるなどして、意見を出しやすい雰囲気づくりをして、積極的に意見の引出しを行なっている。また、出された意見は真摯に受け止め日々のケアに直ちに反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員のスキルアップ等のやむを得ない異動以外は極力行なわない方針としている。また、異動、離職に際しては、利用者にも十分説明している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望、職種などに配慮し、積極的に外部研修に参加させているほか、併設の特養等と協力し合って、年次計画を立てて研修を行っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修等に参加するなど交流する機会を作っているが、地域の同業者との交流や相互訪問等の活動については、計画段階に留まっている。</p>	○	<p>近隣ホームと相談し合って、協同してサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前にホームを見学してもらったり、不安な利用者の心理面に配慮して家族に面会をお願いするなどしているほか、気心の合いそうな利用者に話し相手をお願いするなどして、ホームに徐々に馴染めるような配慮をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、畑作業や食事の準備や片づけ、洗い物などを一緒に行ないながら利用者から生活の知恵を引き出し、日々の暮らしに活かしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や家族からの情報を基に一人ひとりの意向を把握している。また、口数の少ない利用者や意思疎通が困難な利用者に対しては職員の意見を持ち寄り、他のアセスメント票の良い面を取り入れるなどして本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見やアイデアを持ち寄って介護計画の原案を作成し、それを基に本人、家族と話し合いながら介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者の状態等に変化があればその都度、変化がない場合でも認定有効期間内に確実に見直しされている。また、内容については、現実に即した個別具体的なものとなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の通院や、利用者や家族が希望する場所への送迎など、利用者や家族のニーズに応じた柔軟な対応を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医に通院しているほか、毎週訪れる嘱託医師にも気軽に相談できている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の説明がなされ、受け入れ先の施設や病院等との連絡を密に行なうなどしてバックアップ体制を整備しているが、そこに移るまでの間の支援体制については、関係者全員との方針の共有は図られていない。	○	短期間の看取りの必要性が生じた場合に提供する具体的なケアなどについて文書化し、関係者間の意思統一を図ることに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報規程やケアマニュアルを整備するなどして、プライバシーの確保に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の介助や誘導、食事場面などにおいても、利用者一人ひとりの希望やペースを大切にした支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望や意見を献立に反映させている。また、配膳や下膳、盛り付け等を一緒に行なっている。職員も同じ食事を同じテーブルで食べ、メニューに関する話題などを提供して、楽しい雰囲気の中で食事をしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日を設定しているが希望があれば随時対応している。入浴しながら利用に対しては無理強いすることなく、時間をゆったり楽しみや喜びを見出すなどして、それぞれの利用者が温泉浴を楽しめるような工夫をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの得意なことや趣味などを把握しており、畑作業やレクリエーション時など各々が得意とする場面で力を発揮できるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>運動不足にならないよう天気の良い日は近所に散歩に出かけるほか、利用者の希望に沿って買い物や遠足に出かけるなど、多種多様な外出支援を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全ての職員が身体拘束となる具体的な行為について理解していると同時に、身体拘束をしない為の知識と技術を持ち、日々実践している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵をかけない暮らしの大切さは理解しているが、ホームが国道に隣接していたり、二階から転落する可能性などを考慮し、自動ドアは常時施錠されている。</p>		<p>運営推進会議等で現場の思いや悩みを率直に伝え、家族、行政等を含めた関係者が意見やアイデアを出し合っ、日中帯だけでも施錠のない暮らしの実現に取り組むことが望まれる。</p>
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急時に備え、非常食等や近隣住民の協力員を確保し、火災訓練を年3回行なっているが、地震訓練については行われていない。</p>		<p>地震発生に備えての訓練マニュアルを作成し、それに基づいた実践的な訓練を行なうことが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設施設の栄養士が作成した献立に添って提供しているほか、ホームの管理者が栄養士なので、その日の一人ひとりの栄養状態や体調に配慮した食事が提供されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>実践的な各種感染症マニュアルが整備され、実践されている。また、マニュアルに最新情報を付け加え、それを回覧するなどして、職員の振り返りを促している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然の光を取り込んだ廊下や居間に家庭的なソファやテーブル等が置かれているので、ホーム内は明るく家庭的である。職員の会話のトーンは穏やかで、テレビの音量はテレビを楽しみたい利用者と会話を楽しみたい利用者の両方に配慮した音量に設定するなど、利用者が居心地よく過ごせるための配慮がされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅から持ち込んだタンスや家族の写真等が飾られ、自分らしい居室作りをしている。</p>		

 は、重点項目。